

第 1723 回例会報告

令和4年1月20日(木)晴れ

会長挨拶

『職業奉仕の概念と 職業奉仕の理念の確立』

会長 小口直久

先週2つの奉仕の理念についてお話させていただきましたが、今回は歴史から紐解く職業奉仕の概念、そして「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という職業奉仕の理念についてお話させていただきます。

ロータリー発祥の地である20世紀初頭のシカゴ市は、アメリカンドリームを夢見て西へ向かう移民たちの交通の要所として栄えました。極端とも言える自由主義経済の下では、抑え犯さなければいかなる手段を講じても多く富を得たものが成功者としてもてはやされました。大不況、ギャングの横行、金儲けのためなら手段を選ばないと言う職業倫理の低下、信頼関係の欠如、腐敗の街シカゴという時代背景の中からロータリーが誕生しました。

一旗揚げようと思いに駆られて田舎の村や町から集まってきた善良な人たちにとっては、この新天地シカゴは決して住みやすい場所とは言えませんでした。自分の周りにはいる全ての人ライバルであり、わずかな弱みでも見せようものなら寄ってたかって引きずり落とそうとする過酷な競争社会でした。

そんな街の中で事業を営んでいる人たちは、誰1人として心の底から語り合える友人はいなくて、孤独感と疎外感に加えていつ過酷な自由競争に敗北するかもしれないという恐怖感が常に付きまどって

諏訪地方、コロナ感染警戒レベル4となり、本日から例会はZOOMのみとなりました

いました。

そんな殺伐とした大都会シカゴの中で、様々な分野の職業人が集まって知恵を寄せ合い、生涯にわたる友情を培うことができる場を作りたい、このようなビジョンを持ったシカゴの弁護士ポールハリスが中心となり、1925年2月23日シカゴロータリークラブが設立されました。

会員の事業所の利益の向上を図るために会員同士の相互扶助が活性化され、やがてそれは積極的な互惠取引に発展していきます。当時はこのようにしてロータリアン同士の物質的相互扶助が盛んに行われるようになっていました。

このようなロータリアン同士の身勝手なことがいつまでも続くことがなく、こうした行動に対する一般人からの非難が高まり、またロータリアン自身からも批判がはじめてきました。

1906年4月にドナルドカーターに、互惠取引の特典を説明してシカゴクラブへの入会を進めた時、職業を持って社会で生活している以上、職業を通じて社会に貢献することが、自分が存在する証になるのであって、自分たちだけの利益にこだわって社会的に何もしない団体に将来性も魅力もない、と言って入会を断ったのです。

互惠取引と親睦のみに終始することに限界を感じ、次の段階へのステップアップを考えていたポールハリスは直ちにロータリーのあり方を転換すること

♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のことば
会員数	37人	1人	3,000円	皆様のお気持ちはその通りですが…… 坂村龍玄 坂村会員には中継会場からの参加でニコボックスをいただきました。若干わかりずらいコメントであるのはラインでのやり取りの結果を踏まえています
出席対象	37人	累計	306,000円	
出席者数	37人	目標額	60万円	
出席率	100.0%	達成率	51.0%	
前回修正	100.0%			



2021-2022 年度 諏訪湖ロータリー活動方針

「温故知新」

